

令和7年はどんな年！？

12年に1度巡ってくる干支（かんし）ですが、「十干十二支（じっかんじゅうにし）」を省略したもので、「子、丑、寅、卯、辰、巳…」で始まる12の動物（十二支）と、甲・乙・丙・丁・戊・己・庚・辛・壬・癸の10の要素（十干）を組み合わせた60通りからなります。2025年は、「乙巳（きのとみ）」になるようです。

「巳」はヘビを意味し、神聖な動物として崇められてきました。脱皮を繰り返して成長していくさまから、復活と再生のシンボルとして縁起の良い動物とも言われています。一方、「乙」は軋む（きしむ）という意味があり、陰陽五行説では「木の陰」のエネルギーを持つとし、日陰でも成長し、しなやかに伸びる植物を表しています。「乙巳」は、「火の陰」と「木の陰」で相互にバランスのとれた関係にあり、物事が順調に進む年であると言われています。（1月1日のyahoo ニュースより抜粋）



令和6年1月1日の未曾有の能登半島地震からの復興・復旧も道半ばながらも、少しずつ日常を取り戻しつつあった9月、奥能登豪雨が発生しました。各地に甚大な被害をもたらされたこと、とりわけ本校の生徒と同じ年齢の尊い命が奪われたことは、痛恨の極みです。衷心より哀悼の意を表すと共に、令和7年は、明るく、穏やかに過ごせる年であってほしいと心より願いたいと思います。

さて、3学期が始まりました。3学期は、一番短い学期ですが、生徒にとっても学校にとっても重要な学期です。1年間を振り返り、身に付けなければならない学力が本当に付いたかを確認し、不足している点を補充するとともに、新年度の進学、進級となることを見据えて、心の構えをつくる0学期でもあります。新年を迎えるに当たって、自ら新たな気持ちで、目標や誓いを立てた人も多いと思います。自分の目標に向かって、着実な歩みを続けてください。

生徒の皆さんの3学期が充実したものとなるよう、また、しなやかに伸びる植物のような柔軟な考え方や協調性、そして「これを絶対に成し遂げる」というヘビのような折れない強い心をもって、困難に直面しても、それを乗り越え前進できる“きのとみ”の年となるよう願っています。

年頭に当たって

中国の古い書物「大学」の中に、「日新日々新」という言葉があります。中国古代の殷王朝を開いた湯王（とうおう）が言い始めたと言われていて、「ひあらたに ひびあらたなり」と読みます。原典は、「苟日新 日日新 又日新」（まことに日に新たに、日々に新たに、また日にあらたなり）からです。この意味を易しい言葉で言うと、「今日という日は、天地が創られて以来、初めて訪れた日である。それもどんな人にもみな平等にやってくる。そんな大事な1日だから、もっと有意義に過ごさなければならない。そのため、今日の行いは昨日より新しくなるよう、また、明日の行いは今日よりさらに新しくなるようにしなければならない。」ということです。

前日までの反省をもとに、毎日新たな気持ちで行動し、努力を積み重ねて、昨日より今日、今日より明日と日々少しずつ進歩していきたいものです。

編集後記

例年に比べて穏やかな天気の新正月三が日から新年が始まりました。明けましておめでとうございます。本年もどうぞよろしくお願いたします。▼8日（水）の学習オリエンテーションで、「メタ認知」の大切さについて話をしました。中学生であっても、自分を俯瞰し客観的に見つめることは様々な学校生活に役立つからです▼自分の視点や思考の偏りに目を向けるときに、よく耳にする言葉「鳥の目、虫の目、魚の目」。その意味は、俯瞰する視点、細部を見る視点、物事の流れを見る視点です。加えて、私自身が最近特に大切にしているのは「コウモリの目」です。常に4つのバランスを意識しながら、行き詰まった時には逆転の発想もまた大切です▼現在3年生全員が進学を希望しています。数年後、社会人として活躍するはずであろう生徒たちに対して、4つの視点の大切さを伝え、令和7年の年明けを希望や目標をもった新たなスタートとしたいと思います。（宮下）